

会社名	業種	社員数	取組の背景・目的	取組の内容	取組の効果
株式会社 ウィズテクノロジー	ソフトウェア 開発、 スマホ アプリ 開発	17人	<p>■ これまでの取組</p> <p>① 2016年6月～ 週2回程度の在宅勤務を実施（育児休業から復帰後の女性社員本人の希望と実験的に総務業務の一部を在宅勤務化）</p> <p>② 2019年頃～ 特段の理由がなくともテレワーク導入可能となるようパソコンやネットワーク、ツール類の準備を進める。</p> <p>■ コロナ禍を機に変革的取組</p> <p>① 2020年4月～2020年5月 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を機に、同期間中は全社員をテレワークとした。</p> <p>② 2020年6月～ 同宣言解除後も経団連の「オフィスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」にそってテレワークを継続。</p> <p>③ 2020年11月 本社の移転（52坪から約8坪+関西各所のコワーキングスペース利用へ）</p>	<p>■ 対象業務：全部門</p> <p>■ 対象人員：全社員</p> <p>■ 取り組み内容</p> <p>① 本社の移転 レンタルオフィスへ移転し、全員が本社、自宅、関西各所にある複数のコワーキングスペースの中から自分で「働く場所」を選べる形とした。</p> <p>② チャットツールの活用 全員にオープンなチャットが展開できるようにした。</p> <p>③ 書類等のオンライン化 書面関連も出来る限り電子データでのやり取りに変更した。 出退勤や労務管理もクラウドサービスを利用し、リアルタイムで把握が出来るようにした。</p> <p>④ ユニット制の導入 異なるプロジェクト、年次のメンバー4名程度のユニット制を導入。少人数で定期的に交流を図れるようにした。</p> <p>⑤ 社内ラジオの開始（ツールは自社作成） 代表取締役による社内ラジオの発信を開始。</p>	<p>■ テレワーク導入により得られた効果</p> <p>① ワーク・ライフ・バランスの充実 自分のライフスタイルに合わせて勤務場所を選べることにより、時間の使い方が変わり、プライベートの充実が図れる。</p> <p>② 経費削減 オフィス移転による固定費や交通費の削減、クラウドサービス等に経費を転換、社内業務の工数削減につながった。</p> <p>③ クラウド化の促進。</p> <p>■ テレワーク導入後の課題</p> <p>① コミュニケーション不足 チャットや画面越しのコミュニケーションだけでは、限定的になってしまう。</p> <p>② 課題・問題の可視化不足 物理的距離により、潜んでいる課題、問題に気づきにくい。</p> <p>■ 今後の展望</p> <p>① テレワーク率70%を目指す。</p> <p>② ワーク・ライフ・バランスの充実のため、さらなる環境整備を図る。</p> <p>③ どこでも仕事ができる環境を目指す。</p>